

事後評価シート

コード 12-1-3	事務事業名 文化財保護事業(郷土資料の整備)	所管部課 生涯学習部社会教育課
---------------	---------------------------	--------------------

事務事業の概要	事務事業の目的 市民の郷土史に対する理解を深める。 郷土史の理解に必要なアドバイス及び情報提供を行なう。 郷土史上必要な文化財等の収集・展示、保存に努める。	事業の区分 <input type="checkbox"/> 総合計画 <input type="checkbox"/> 行革項目 <input checked="" type="checkbox"/> その他の事務事業
	実施内容、実施方法 嘱託職員(1名)を配置し、郷土資料室の管理運営に当たる。加えて資料室の展示方法及び資料の整理・調査のため、必要に応じて文化財専門員が事務の一部に当たる。保管場所の絶対的な不足のため整理調査が進展しにくい。	根拠法令等 西東京市郷土資料室管理運営規定
	事業開始時期 合併前から	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ()

評価指標の設定	活動指標名 郷土資料室開室日数	活動指標の考え方(定義) 郷土資料室の年間開室日数
	成果指標名 1次 郷土資料室入場者数	成果指標の考え方(定義) 1次 郷土資料室の年間入場者数
	1次	1次
	2次	2次

		単位	15年度	16年度	17年度	18年度
事務事業データ	事業費(A)		2,404	6,235	3,725	3,104
	国庫支出金	千円				
	都支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		2,404	6,235	3,725	
	所要人員(B)	人	0.04	0.04	0.04	0.04
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	331	333	327	327
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	2,735	6,568	4,052	3,431
	単位当たりコスト (E)=(D)/ (入場者数)	千円	1.0	2.2	1.4	#DIV/0!
歳入	千円					
活動指標	目標値				251	251
	実績値	日数	245	246	251	
活動指標	目標値					
	実績値					
1次成果指標	目標値				3,000	3,000
	実績値	人数	2,702	2,972	2,885	
1次成果指標	目標値					
	実績値					
2次成果指標	目標値					
	実績値					

事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	資料室の説明文が、小学生には理解しにくいという意見がある。 郷土資料室は、公共交通上不便という意見がある。
	26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	近隣市では文化財係があり、正規職員が配置されている。無いのは当市のみである。施設(郷土資料室)と審議会(文化財保護審議会)を抱えながら、体制を整えていないのは問題がある。
	運営上の制約条件・外部要因等	正規職員の配置が無いままの郷土資料室の運営 未整理資料の点在(市内7ヶ所) 早稲田大学保管埋蔵資料(約25t)の引き取り問題

コード 12-1-3	事務事業名 文化財保護事業(郷土資料の整備)	所管部課 生涯学習部社会教育課
---------------	---------------------------	--------------------

【事業所管部評価】

検証項目	選択基準	ランク	選択理由、特記事項等
1 目的の適切さ・目標	目的の妥当性 4 上位施策と目的が合致しており、施策に対する貢献度は他の事業と同程度である	▼	4
	目標の妥当性 2 目標を定量的に設定できないが、定性的には設定している	▼	2
	緊急性 4 今後しばらくの間、少しずつでも継続して実施する必要がある	▼	4
2 市が関与する必要性	法的義務性 4 法律で任意での実施が規定されている	▼	4
	必要性 2 豊かな市民生活の形成に寄与するサービスである	▼	2
	民間との役割分担 3 本市以外の都内で、民間団体が同種・類似サービスを提供している事例がある	▼	3
3 内容の適切さ	ニーズ 2 市民(庁内)ニーズが推測でき、推測に見合ったサービスであることを説明できる	▼	2
	規模・方法の妥当性 3 事業規模や方法は、事業担当部門の独自の考えで適宜見直している	▼	3
	公平性 3 直接の対象は、特定属性の特定多数の市民または団体が対象である	▼	3
4 実施手段の適切さ	有効性 3 質・水準の改善に積極的に取り組んできているが、成果の向上はあまり期待できない	▼	3
	効率性 2 市直営の中で具体的な計画や目標等に基づきコスト低減に取り組んでいる	▼	2
	独自性 3 国や都に同種の目的を有する(類似・重複を含む)他の事務事業がある	▼	3
合計			35

	評価結果	判断理由、説明等
総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	今後、特色ある郷土資料室として、多くの市民の方々に利用されるよう改善を図る。

18年度における改善点	従来の展示方法の見直しを行い、展示方法やその説明文の改善を18年度に実施する。また、平行して市内各所(7ヶ所)散在している収蔵物を整理・統合し、貴重な歴史資料の有効活用を図る。
-------------	--

二次評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	市として郷土の歴史及びその具現資料をどの様に位置づけるのかを検討し、方向性を明確にしないと資料室のあり方やその他の資料の整理も進まないのではないかと考える。資料の保管場所のいくつか(水道関係及び早稲田大学関係)については、明け渡し要望が出されているとのことであり、早期の検討を要する。
------	---	--

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	市としての郷土資料室のあり方を検討した上で方向性を明確にし、点在した資料の整理・統合を行うべきである。
--------	---	---